



兄の分まで頑張る！ U-20日本代表候補FW

日本中に勇気と感動を与えたなでしこジャパンのワールドカップ初優勝から1年余り。次は、ヤングなでしこが世界の頂点をめざす。

8月18日から日本で開催されるFIFA U-20女子ワールドカップジャパン2012に出場する日本代表候補に、阿南市出身で常盤木学園高等学校3年の道上彩花選手が選ばれた。

みちのく東北の地で、亡き兄の思いとともに夢を追いかける若きストライカーを紹介する。

「フィジカル面では外国人相手でも当たり前負けしない自信があります」

恵まれた体格を生かしたドリブル突破からのシュートやポストプレーを得意とする。今年から正式種目になった全国高校総体では、東北代表として初代女王の座を狙う。一方、チャレンジリーグ（なでしこ2部リーグ）では21得点を稼ぎ、得点ランキング1位の活躍をみせている。6月に大阪で開催されたアメリカとのU-20国際親善試合では、FWでフル出場し、勝利に貢献。フィジカル面で外国人選手に劣る日本チームにとって、頼もしい存在となっている。

道上選手は、高校2年の時からU-20日本代表候補選手として活

Profile

みちがみ・あやか

小学2年からサッカーを始め、FWとしてプレー。中学では鳴門ポラリスLFCに入団。高校は、女子サッカー界の名門・常盤木学園高等学校に進学。高校2年から日本代表候補選手として活躍。FIFA U-20女子ワールドカップジャパン2012の日本代表候補にも選ばれる。将来の目標は、なでしこジャパンに入り、オリンピックで金メダルを取ること。

1994.7.27 (18歳)
身長170cm / 65kg
阿南市那賀川町出身
宮城県仙台市在住
常盤木学園高等学校3年
FW 背番号10

躍している。常に上をめざし挑戦し続ける飽くなき精神は、多感な小中時代に培われた。

3学年上の兄の影響を受け、小学2年の時にサッカーを始める。「最初はボールを蹴るだけで楽しかった。」と、すぐにのめり込んだ。小学時代は今津SCでプレーし、中学では男子部員に混じって練習に打ち込んだ。「上をめざすならこしかない」と、鳴門ポラリスLFCにも入団し、女子サッカー選手としての競技力を磨いた。当時を知る岸本徹コーチは、「負けん気の強さとサッカーへの情熱は人一倍だった。」と評する。そして中学1年の夏、全日本女子ユース(U-15)サッカー選手権大会でいきなりの準優勝。「全国2位になったことで自信がついたし、まだまだ上にいけるだろうなって思いました」。この経験が、それまで全国大会とは無縁だった道上選手のサッカー人生をさらなる高みへと導いた。

高校は、女子サッカー界の名門・常盤木学園高校を志望した。「試合

を見た時から、ほかの高校に行く気になれませんでした。」と即断。厳しい環境にすんで身を置く姿勢は両親も感心するほど。「初めの頃は大変だったけど、まわりの意識が高かったので自分も負けないように」と。過密スケジュールにも「自分の好きなことをやらせていただいているので、きついなって思ったことは一度もありません。」と、道上選手らしい言葉が並ぶ。

親元を離れ、精神的にも強くなったという。「今、私がサッカーできているのは両親のおかげ。夢を叶えて恩返ししたい。」と目を輝かせている。

道上選手には、早世した兄に誓った夢がある。小学5年の時、兄を急病で亡くした。悲しみに打ちひしがれ、大好きなサッカーに背を向けたこともあった。それでも「2人で一緒に日本代表に入ろうと言っていたので、お兄ちゃん分まで頑張らなければ」と、小さな心を奮い立たせ、代表候補にまで駆け上がった。「目標はあくまでなでしこジャパン。4年後のオリンピックも見据え、しっかりとやらなければと思っていきます」

涙でにじんだ夢は、6年余り経った今、はっきりと見えている。試合で使うすね当ては兄の形見。夢の大舞台で兄とともにゴールの喜びを分かち合う日は近い。
がんばれ！道上選手。